

■ Hitachi Virtual Storage Platform F350, F370, F700, F900の主な仕様

名称		Hitachi Virtual Storage Platform F350	Hitachi Virtual Storage Platform F370	Hitachi Virtual Storage Platform F700	Hitachi Virtual Storage Platform F900
形名		HT-40SF-F350	HT-40SF-F370	HT-40SE-F700	HT-40SE-F900
ホストインタフェース	種別	ファイバチャネル:最大32Gbpsまたは iSCSI:最大10Gbps			
	ポート数(最大)	ファイバチャネル 16(32Gbps/16Gbps)	ファイバチャネル 16(32Gbps/16Gbps)	48(32Gbps/16Gbps)	64*1(32Gbps/16Gbps)
サポートドライブ	ポート数(最大)	iSCSI 8 (10GBASE-SR/10GBASE-T/1000BASE-T)		24 (10GBASE-SR/10GBASE-T/1000BASE-T)	32*1 (10GBASE-SR/10GBASE-T/1000BASE-T)
	ドライブインタフェース	SAS(Serial Attached SCSI)最大12Gbps			
最大物理容量	フラッシュドライブ	480GB ~ 30TB		960GB ~ 30TB	
	アレイシステム内部ストレージ	5,778TB(5,255TiB)	8,667TB(7,882TiB)	26,002TB(23,648TiB)	34,669TB(31,531TiB)
キャッシュメモリー容量	アレイシステム外部ストレージ	72PB(64PiB)	144PB(128PiB)	216PB(192PiB)	287PB(255PiB)
		128GiB	256GiB	512GiB	1,024GiB
サポートRAIDレベル		RAID5(2D+1P~8D+1P)、RAID1(2D+2D、4D+4D)*2、RAID6(4D+2P、6D+2P、8D+2P、10D+2P、12D+2P、14D+2P)*3			
電源入力(AC)		単相 100V/200V		単相 200V	
コントローラシャーシ仕様	EIA規格ユニット数*4	2		4	
	外形寸法(W×D×H)*5	483×813×88mm		483×809×175mm	
	質量(最大)*6	50kg		85kg	
	所要電力	定格電力*7	800VA(760W)以下	1,600VA(1,560W)以下	
	消費電力*8	610W以下		860W以下	
騒音レベル(LpA)*9	動作時	60dB			

*1 チャンネルボードボックス(2U)を搭載した場合です。
 *2 RAID1(4D+4D)は、RAID1(2D+2D)を2組連結させて構成します。
 *3 Hitachi Dynamic Provisioning, Hitachi Dynamic Tiering, Hitachi Thin ImageのプールのRAID5(2D+1P、5D+1P、8D+1P)およびRAID6(4D+2P、8D+2P、10D+2P)はサポートしていません。
 *4 コントローラシャーシの高さと、ラック筐体の物理ユニット数を示します。ユニットとは、ラック筐体を開けられている取付用の穴と穴との間隔(高さ方向)を言い、EIA(Electronic Industries Association)のパネル取付規格では、1ユニットは44.45mmとなっています。
 *5 外形寸法にはケーブルおよびケーブル固定クランプ、ケーブル固定ネジを含みません。
 *6 最大構成(搭載可能なディスク、冗長コントローラなどすべてを搭載)における質量を示します。
 *7 全オプションを実装した構成での最大負荷時の消費電力です。
 *8 全オプションを実装した構成で、エラー無し、I/O有りの状態での消費電力です。
 *9 騒音値はISO7779に準拠して次の条件で測定した数値です。
 ・測定環境: 環境温度23℃±2℃の半無響室で測定
 ・装置搭載位置: コントローラシャーシはラック最下段、ドライブボックスはラック内高さの1.5m付近
 ・測定位置: 装置前後左右から各1m、高さ1.5m(4か所)
 ・測定値: 前後左右4点のエネルギー平均値

※ 1GB=1,000³バイト、1TB=1,000⁴バイト、1PB=1,000⁵バイト、1GiB=1,024³バイト、1TiB=1,024⁴バイト、1PiB=1,024⁵バイトとして計算した値です。

・OracleとJavalは、オラクルおよびその関連会社の登録商標です。
 ・VMware、VMware vSphere、VMware vSphere Virtual Volumes、VMware vCenter Server、VMware ESXi は米国およびその他の地域におけるVMware, Inc. の登録商標または商標です。・その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。



私たちは株式会社日立製作所 システム&サービスビジネスとして環境マネジメントシステムに関する国際規格ISO(国際標準化機構)14001:2015の審査を受け、登録され、製品・サービスのライフサイクル全般における環境問題に積極的に取り組んでいます。
 登録番号:EC02J0400 登録日:1995年7月19日
<https://www.hitachi.co.jp/it-iso14001/>

⚠️ 安全に関するご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず「ハードウェアリファレンスガイド」をよくお読みのうえ、おまもりください。

- カタログに記載の仕様は、製品の改良などのため予告なく変更することがあります。 ●製品の色は印刷されたものであり、実際の製品の色調と異なる場合があります。
- 本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取ください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。

製品に関する詳細・お問い合わせは下記へ

- 製品情報サイト
<https://www.hitachi.co.jp/storage/>
- インターネットでの問い合わせ
<https://www.hitachi.co.jp/storage-inq/>
- 電話でのお問い合わせは HCAセンターへ
☎ 0120-2580-12 受付時間 9:00~12:00、13:00~17:00 (土・日・祝日・当社休日を除く)

株式会社 日立製作所 ITプロダクツ統括本部

CB-036R 2021.3

©Hitachi, Ltd. 2021. All rights reserved.

日立ストレージソリューション オールフラッシュアレイ Hitachi Virtual Storage Platform F350, F370, F700, F900 ディスクアレイシステム Hitachi Virtual Storage Platform G130, G150, G350, G370, G700, G900

HITACHI

Inspire the Next



Hitachi Storage Solutions

Hitachi Virtual Storage Platform F350, F370, F700, F900

Hitachi Virtual Storage Platform G130, G150, G350, G370, G700, G900



Lumada Readyは、Lumadaのソリューションの実現に寄与する、先進的かつ戦略的プロダクトです

高信頼・高効率フラッシュ。 強じんなプラットフォームが、 次世代のクラウド基盤を支える。

IoTの普及で絶え間なく増え続けるデータ。急速に進歩するAIの技術。

膨大なデータのすばやい利活用は、企業が競争力を高めるための必須条件と言えます。

そして今や、データセンターへのフラッシュストレージ導入が当たり前の時代になろうとしています。

Hitachi Virtual Storage Platformミッドレンジファミリー*は、
フラッシュに最適化されたアーキテクチャで、高いパフォーマンスと柔軟性を
さらに進化させた次世代高速クラウド基盤。

日立が長年磨き上げてきた高度な仮想化技術と信頼性でお客様の事業継続性を支え、

これまで煩雑だったデータセンター運用をシンプルかつ効率的なものへと革新します。

実績ある日立の新たなストレージが、時代を勝ち抜くお客様の力になります。

* Hitachi Virtual Storage Platform F350, F370, F700, F900とHitachi Virtual Storage Platform G130, G150, G350, G370, G700, G900の総称です。

高度に安定した パフォーマンス

進化したアーキテクチャで、急激に変動するデータ環境においても、安定したパフォーマンスを発揮。高密度な筐体構成でランニングコストを低減し、将来にわたって増え続けるデータ処理に、柔軟に対応します。

シンプルな運用

直感的に操作できるユーザーインターフェースにより、高度なスキルを必要としない、シンプルなストレージ運用を実現。さらに、小規模システムのためのエントリーモデルも加わり、高品質ストレージがより導入しやすくなりました。

効率のよい データ管理

多彩な容量削減機能で、大量のデータを効率よく管理。容量増設の負担を軽減し、コストパフォーマンスの高いストレージ運用を可能にします。さらに、仮想化ソフトウェアとの連携により、これまで煩雑だったストレージ運用を効率化します。

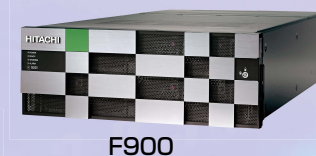
優れた 事業継続性

実績あるデータ保護機能を駆使し、お客様の事業継続を支援。ハイエンドストレージ開発で長年培ってきた高信頼設計とデータ保護機能で、災害時におけるダウンタイムを最小限に抑えます。



コストパフォーマンス重視から
高性能・大容量まで、幅広いニーズに
対応するラインアップを用意。

オールフラッシュアレイ



ディスク アレイシステム



4Uモデル

高スループット・低レイテンシーと
大容量ニーズに対応する
スケーラビリティを実現。

2Uモデル

省スペースと省電力で、
高いコストパフォーマンスを実現。

1U:44.45mm

※日本意匠登録第1491765号 取得済

GUI

直感的でわかりやすいGUIで、
ストレージの専門知識がなくても
管理が可能。

GUI: Graphical User Interface

高度に安定した
パフォーマンス

ビジネスに安定をもたらす、高性能オールフラッシュ。

安定性能を実現するHitachi Virtual Storage Platform F350, F370, F700, F900

実績あるストレージ技術で、高性能・高信頼のオールフラッシュを実現

フラッシュに最適化したOSを搭載し、安定した性能を発揮

フラッシュ向けに最適化されたOS (Storage Virtualization Operating System RF) を全モデルに搭載し、アーキテクチャを一新。急激なアクセス変動やデータ量が急増する環境においても、安定したスループットを発揮します。さらに、国内での一貫した設計・開発により高い信頼性も実現。お客さまのビジネスに安定と安心を提供します。

高度なデータ圧縮と省スペース化を実現するフラッシュドライブ

搭載するフラッシュドライブとして、Hitachi Accelerated FlashとSSDの2種類をサポート。高速データ処理はもちろん、データ圧縮時にも高いデータアクセス性能を維持しながらフラッシュの空き容量を拡大できるHitachi Accelerated Flashと、省スペース化を実現し、多様な容量ラインアップをそろえるSSDにより、さまざまな用途でビジネスの高付加価値化に貢献します。SSD: Solid State Drive

高密度2Uモデル誕生。省スペース化と省電力を同時に実現

Hitachi Virtual Storage Platform F350, F370は、最小システムサイズを2Uに抑えた高密度構成により、省スペース化と省電力化を同時に実現。さらに、フラッシュ処理に最適化されたコントローラで、

安定稼動とシンプルな運用管理を支える、実績豊富な機能

エンタープライズ環境で実績のあるローカル/リモートコピー機能を搭載し、遠隔地への安定したデータ転送をサポート。さらに、統合プラットフォーム管理ソフトウェアHitachi Command Suiteを搭載し、ディスクアレイシステムHitachi Virtual Storage Platform G130, G150, G350, G370, G700, G900と共通したシンプルな運用管理を実現します。

■Hitachi Virtual Storage Platform F350, F370, F700, F900の導入効果

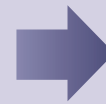
適用分野	導入効果
DB高速化	高いランダムアクセス性能で、迅速なデータアクセスが可能
VDI	仮想PC起動/終了の高速化、ラック本数・消費電力減に伴う運用コスト削減
データ分析	高速データ処理により、分析結果をスピーディーに算出

VDI: Virtual Desktop Infrastructure

安定した低レイテンシーと高度なランダムアクセス性能を提供。個別システムやクラウドなど、コストパフォーマンスが求められる用途に適しています。



従来モデル
Hitachi Virtual Storage Platform F400
6Uサイズ



新モデル
Hitachi Virtual Storage Platform F370
2Uサイズ

シンプルな運用

システム規模も運用スキルも問わない、高品質ストレージ。

小規模システムのために設計された、Hitachi Virtual Storage Platform G130

小規模構成向けに設計されたエントリーモデル、Hitachi Virtual Storage Platform G130がラインアップに加わりました。ハードウェアの設計から見直し、ハイエンドストレージと同等の機能を実現*。シンプルなユーザーインターフェースのため、高度な運用スキルを必要としません。スタンドアロンでの利用をはじめとする、コスト優先の用途に適しています。ラインアップを一新し、コストパフォーマンス重視から高性能・大容量まで一貫した高機能・高品質を実現。システム規模を問わず、幅広いニーズに対応します。*一部、未サポートの機能があります。



直感的なユーザーインターフェースで、手間なくスピーディーな運用を実現

Storage Virtualization Operating System RFに新ユーザーインターフェースHitachi Storage Advisor Embeddedを内蔵。シンプルなデザインのため、ストレージの専門知識がなくても、構築・管理・運用を行うことができます。また、従来のHitachi Virtual Storage Platformミッドレンジファミリーで提供してきたユーザーインターフェースも継続サポート。細かなチューニングやパラメータの設定など、業務システムごとに最適な構成を作成することも可能です。

特長 1 ストレージ管理のスキルが不要

ストレージの専門知識がなくても使えるユーザーインターフェースのため、管理・運用の学習の手間を大幅に軽減できます。

特長 2 Webブラウザで簡単運用

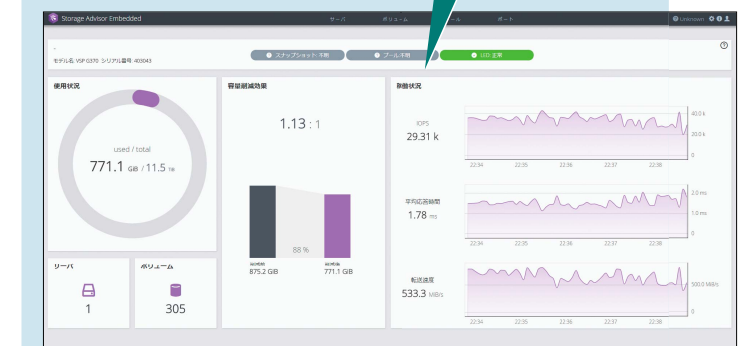
Storage Virtualization Operating System RFにGUIやCLI、APIを内蔵。専用の管理端末やツールをインストールすることなく、Webブラウザから運用できます。

特長 3 シンプルなナビゲーション

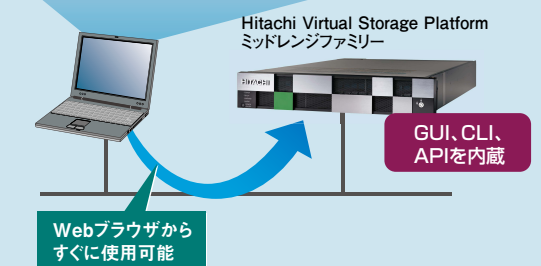
直感的でわかりやすいナビゲーションで、ストレージ環境の構築や性能情報の取得・表示など、日々のストレージ管理をアシストします。また、高速なレスポンスで、ストレスなく運用管理ができます。

GUI: Graphical User Interface
CLI: Command Line Interface
API: Application Programming Interface

直感的なGUIで、ストレージの専門知識がなくても操作可能。レスポンスもよく、スピーディーに設定できる。



ダッシュボード画面



状況に応じた容量削減機能で、性能設計の負担を軽減し、容量効率を向上

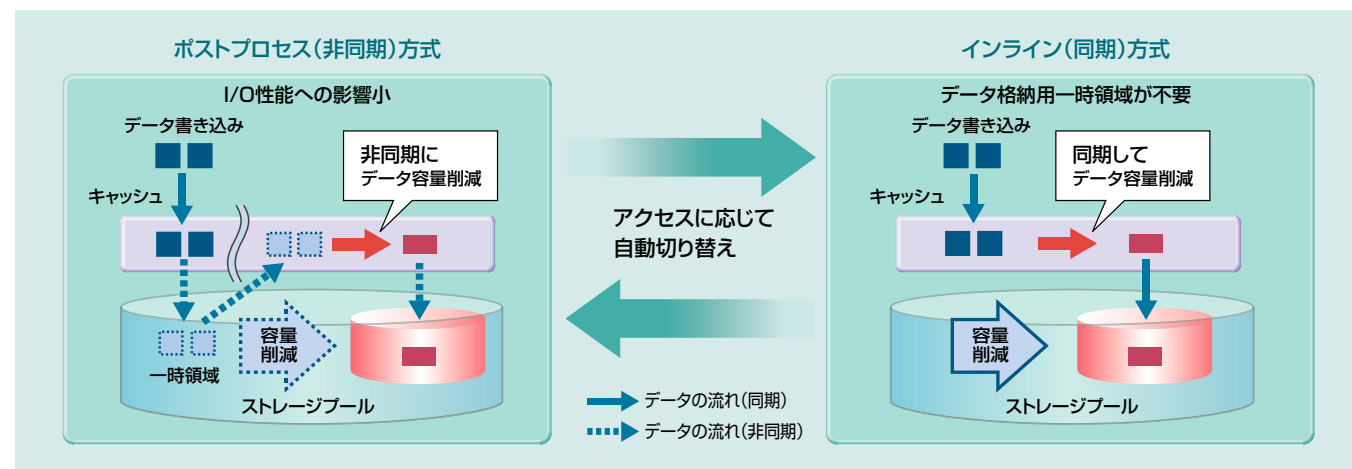
大量のデータを効率よく運用*

重複排除機能および圧縮機能により、ストレージに格納されたデータを集約し、消費されるデータ容量を低減します。容量効率を高めることでコスト削減が期待でき、特にバックアップやアーカイブなど低コストでの保管が求められるデータに有効です。また、ディスクドライブと比べ高価なフラッシュドライブにおいて、データの種類の合わせた適正コストでの運用が可能となります。

フラッシュドライブの高性能と容量効率を両立*

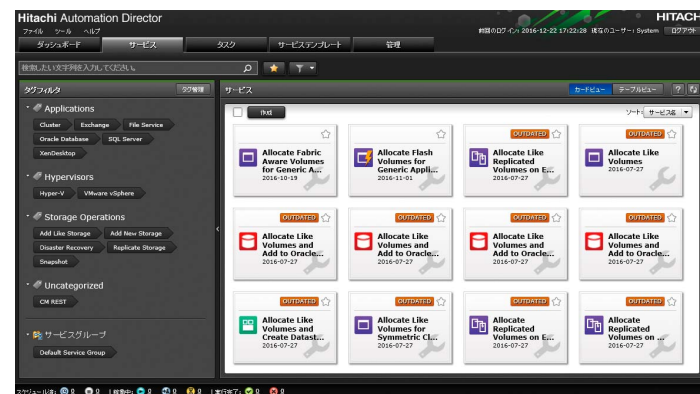
容量削減機能には、重複排除・圧縮処理に加え、データの破壊を防止するため処理の実施前後にデータ比較によるチェックが必要であり、この処理が性能に影響を与えるという課題がありました。Hitachi Virtual Storage Platformミッドレンジファミリーでは、データのアクセスパターンに合わせ、チェック処理を非同期に行い性能を優先する「ポストプロセス(非同期)方式」と、同期して処理し容量削減を優先する「インライン(同期)方式」の2つの方式を自動的に選択する、インテリジェントな容量削減機能を提供。フラッシュドライブの高性能を生かしながら、コスト削減を図ることができます。

*Hitachi Virtual Storage Platform G130では非サポートです



ITインフラ環境の運用管理を自動化する「Hitachi Automation Director」

Hitachi Automation DirectorはITインフラ環境における仮想マシン作成やディスク容量の増設など、システム構成変更にかかる運用作業を自動化します。これにより、運用コストの削減や安定稼働を支援します。例えば、サーバが必要とするディスク容量やデータのバックアップ先など、最小限の条件を指定するだけで、ストレージ内の負荷状況を考慮し、最適なボリュームを設定してくれます。また、VMwareやOracleなどのアプリケーションの設定まで、まとめて自動実行できるので、大幅な作業時間の短縮が図れます。Hitachi Automation Directorを導入することにより、例えば、ストレージ間のバックアップ環境の構築にかかる操作数を約90%削減*できます。 * 日立内環境で比較・検証

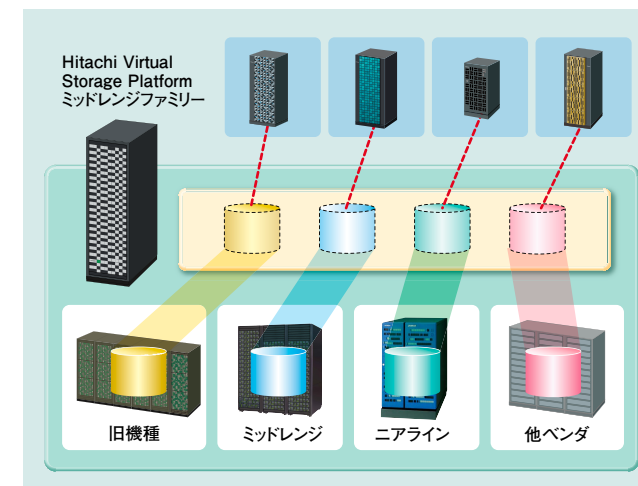


ITサービスポータル画面

ストレージデバイスの仮想化機能

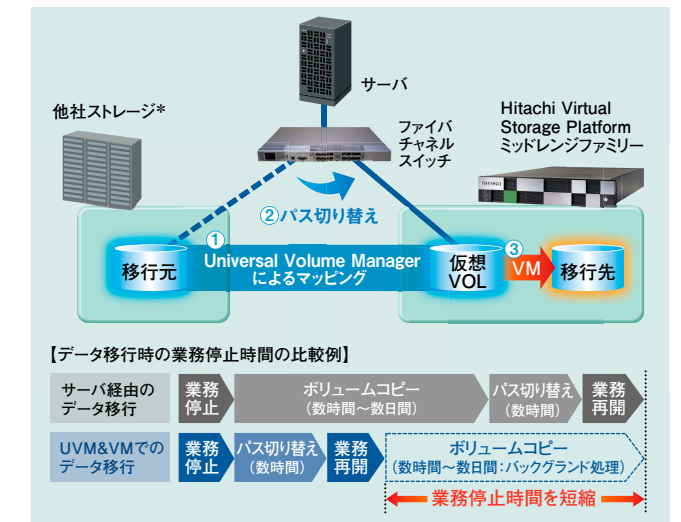
既存ストレージ資産の有効活用

他社ストレージ*を含む異種ストレージを1つのストレージとして統合する仮想化機能Hitachi Universal Volume Managerを提供。接続された外部ストレージは仮想化され、内蔵ディスクと同様に操作や管理ができます。また、複数の異種ストレージが混在する環境での統一的なデータコピー運用を実現し、既存ストレージ資産を有効活用できます。 *事前評価が必要となる場合があります



業務停止時間を大幅に短縮したデータ移行

仮想化機能 Hitachi Universal Volume ManagerとVolume Migrationにより、異種ストレージからのデータ移行処理を、サーバを経由せずに実行できるため、システム性能への影響がありません。これまで、旧機種や他社ストレージからのデータ移行時に発生していた長時間の業務停止や、作業の負担を削減します。



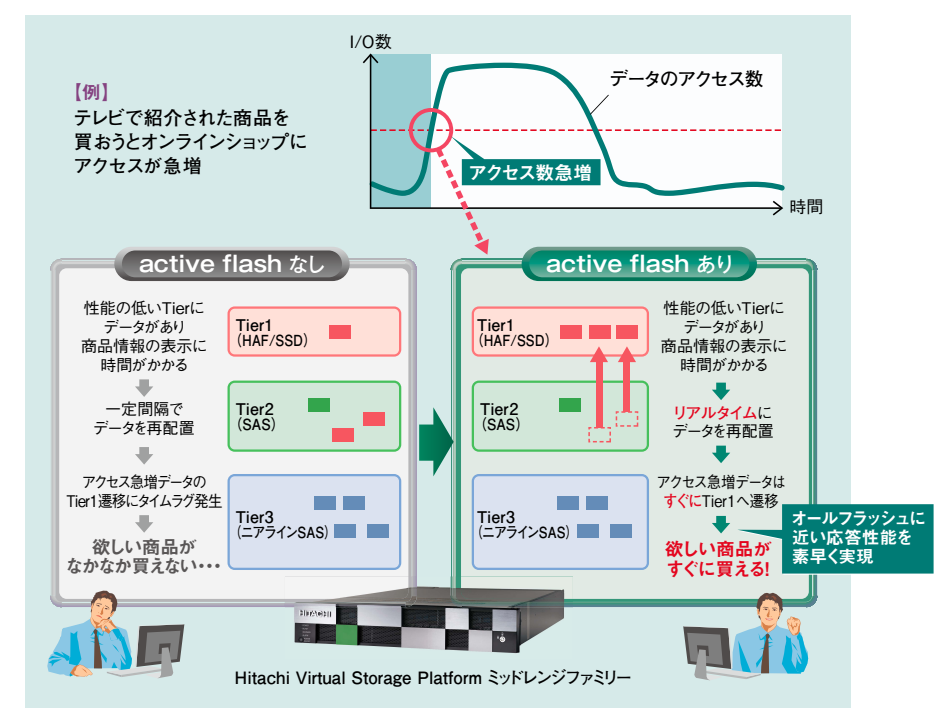
UVM: Universal Volume Manager VM: Volume Migration *事前評価が必要となる場合があります。

データをアクセス頻度に応じて最適なドライブへ自動配置

Hitachi Dynamic Tiering Software*1により、データのアクセス頻度をモニタリングし、ストレージプールを構成するストレージ階層間で、それらのデータを自動的に再配置(最短30分周期)。アクセス頻度の高いデータを高速なストレージ階層に配置することで、容量コストを最適化。さらに、リアルタイムにアクセス頻度をモニタリングする機能active flash*2により、アクセスが集中するデータを即座にフラッシュドライブ(HAFやSSD)に再配置することで、急激な負荷変動にも高速に追従できます。これにより、複雑なストレージ階層の設計を行うことなく、ストレージのコストパフォーマンスを向上させることができます。

*1 米国特許第8,041,682号 取得済
*2 米国特許第8,880,830号、米国特許第8,918,609号 取得済

HAF: Hitachi Accelerated Flash
日立が独自開発した高性能フラッシュモジュールドライブ



効率のよい
データ管理

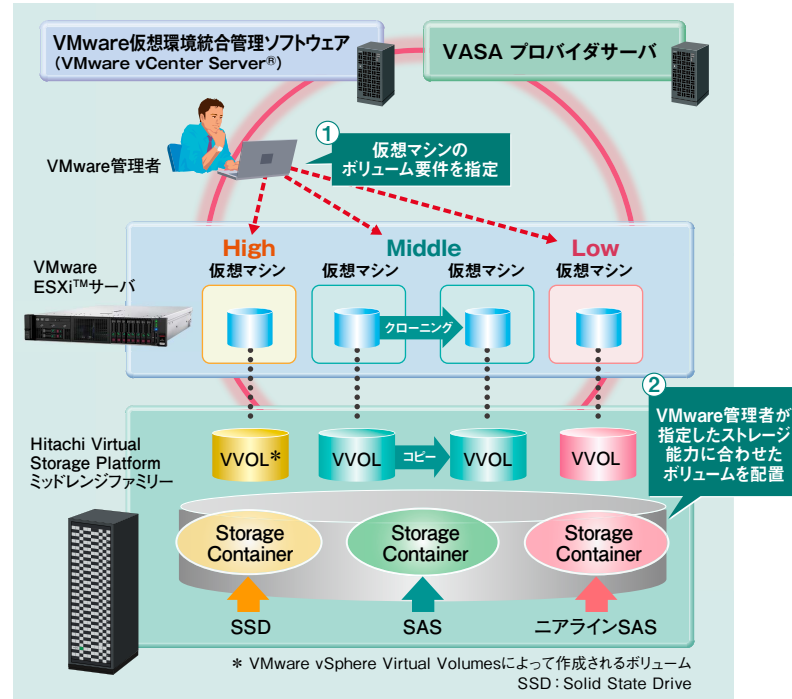
多彩な機能で、仮想化環境における
ストレージ運用管理を省力化。

仮想化環境の最適化

仮想マシン単位のスマートな ストレージ運用管理を実現

VMware環境からVMware vSphere® Virtual Volumes™を運用管理できる機能VASA Providerを提供。仮想マシンのクローニング/スナップショット機能をストレージにオフロードできます。さらに、VMware管理者は、業務の要件に合わせ、ストレージ管理者が設定したストレージ能力(Storage Capability)を参考に適切なボリュームを指定・運用できます。これにより仮想マシン単位でポリシーベースのストレージ運用管理を実現できます。

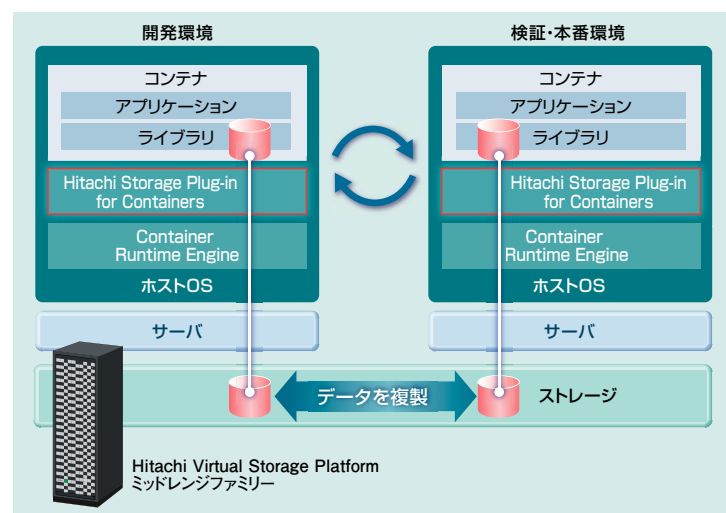
VASA: VMware vSphere APIs for Storage Awareness



コンテナ環境との連携

ステートフルなアプリケーションの ポータビリティを実現

コンテナ環境では、アプリケーションの動作環境を分離し俊敏な開発を実現することができます。しかし、データベースなどを用いたステートフルなアプリケーションではサーバをまたいだ移行ができず、コンテナのポータビリティに課題がありました。Hitachi Virtual Storage Platform ミッドレンジファミリーでは、コンテナオーケストレーションソフトウェアと連携したデータの複製を可能にすることで、柔軟なアプリケーションの移行を実現。また、ソフトウェア管理者やアプリケーション開発者がコンテナにボリュームを割り当てる作業が行えるため、効率的な開発を実現できます。



RESTful API

クラウド基盤として柔軟な操作性

ストレージの遠隔管理を可能とするHTTP方式のAPIを搭載。ストレージの状態取得、サーバへのボリューム割り当てやポートの設定、プール管理などの操作を行うことができます。サードパーティのツールを利用しインフラ全体の管理を1つの画面上で行ったり、

WebアプリケーションにRESTful API (REST API)を組み込むことでクラウド基盤のユーザーにストレージの操作を公開するなど、管理者の負担を軽減し、業務と連携した柔軟なストレージ運用が可能となります。

REST: Representational State Transfer
API: Application Programming Interface

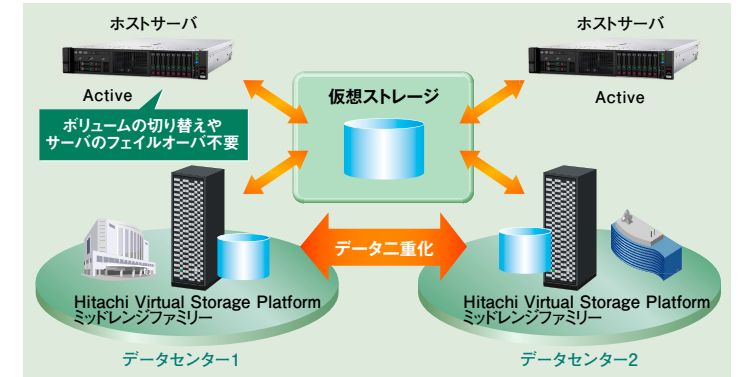
優れた
事業継続性

実績あるデータ保護機能と高信頼設計で、
事業継続性の向上に貢献。

Active-Activeなボリュームミラーリング*1

物理ストレージをまたぐActive-Activeなボリュームミラーリング機能global-active device*2により、データの二重化をサポート。ホストサーバに対して、異なるストレージ筐体の2つのボリュームを、同一のものとして認識させることができます。これにより、片方のボリュームでの障害発生時にも、サービス無停止でのシステム切り替えができます。また、ミラーリングされた2つのボリュームに対しては、異なる経路からでも、物理ストレージ間でボリュームを切り替えることなく動的にアクセスが可能。離れた拠点間でも、ストレージクラス環境を構築できます。

*1 Hitachi Virtual Storage Platform G130では非サポートです
*2 米国特許第8,943,286号 取得済



遠隔拠点間のデータコピーを実現*1

●2種類のリモートコピー機能

Hitachi Virtual Storage Platformミッドレンジファミリーは、データセンターの災害対策として、サーバフリー(非経由)でローカルサイトとリモートサイトに設置したシステム間のリモートコピー機能を提供します。サイト間のデータ整合性を最重要とする同期リモートコピー機能と、業務サーバへの影響を極小化した非同期リモートコピー機能を提供しています。

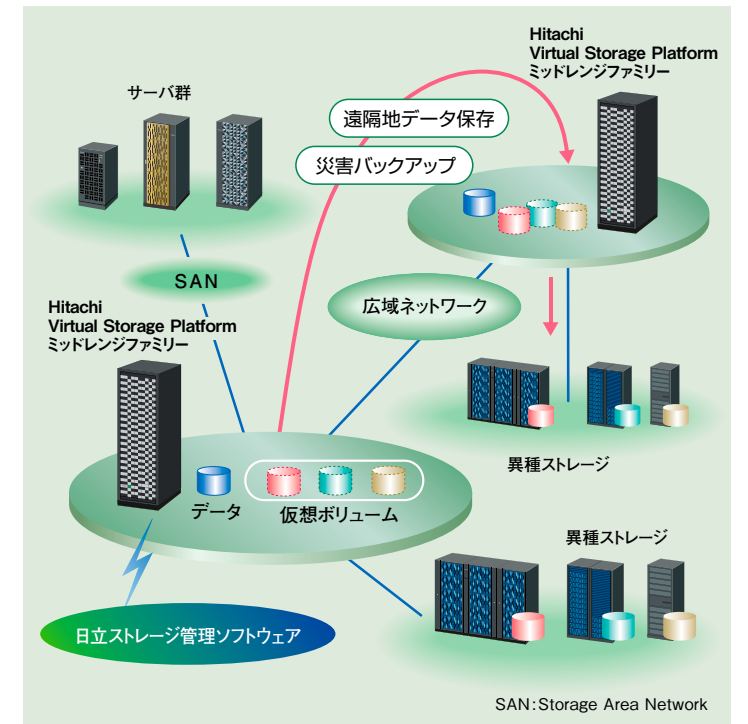
●柔軟なコピー運用

広域災害や局所災害に備えるデータセンター構成で、ストレージリソースの使用効率を向上しつつ柔軟なコピー運用が可能です。また、非同期リモートコピーと、同期リモートコピーやglobal storage virtualizationとを組み合わせることで、3拠点のデータセンター構成を構築することで、事業継続性をより高めることができます*2。

●安定した非同期リモートコピー*3

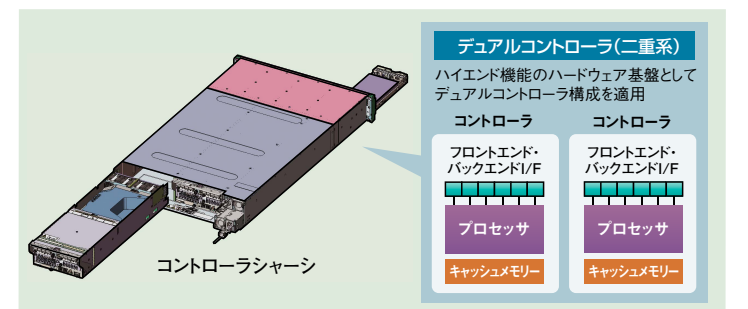
非同期リモートコピー機能ではジャーナルを利用し、リモートサイトデータの一貫性保証やトラフィック変動時もより安定したリンクコントロールを実現します。

*1 Hitachi Virtual Storage Platform G130では非サポートです
*2 Hitachi Virtual Storage Platform F900, G900のみサポート
*3 米国特許第7,152,079号 取得済



高信頼なデュアルコントローラ構成

デュアルコントローラをベースとした高信頼設計を採用し、ハイエンドクラスの機能提供に加えて、ミッドレンジモデルで求められる省スペースと高性能を実現しています。コントローラ間のキャッシュメモリーでは、データを二重書きすることで高信頼性も確保。停電事故などが発生した場合に、データを専用領域に退避させ保護します。さらに、HAソフトやI/Oパススイッチソフトなどと連携することで、万一のトラブル発生時にも処理の中断時間やアプリケーションへの影響を最小限に抑えられます。



主な仕様

Hitachi Virtual Storage Platform G130, G150, G350, G370, G700, G900の主な仕様

名称		Hitachi Virtual Storage Platform G130						Hitachi Virtual Storage Platform G150		Hitachi Virtual Storage Platform G350		Hitachi Virtual Storage Platform G370		Hitachi Virtual Storage Platform G700	Hitachi Virtual Storage Platform G900	
		2.5型モデル			3.5型モデル			2.5型モデル	3.5型モデル	2.5型モデル	3.5型モデル	2.5型モデル	3.5型モデル			
形名		HT-40SG-CBXSSF	HT-40SG-CBXSSC	HT-40SG-CBXSSS	HT-40SG-CBXSLF	HT-40SG-CBXSLC	HT-40SG-CBXSL	HT-40SG-CBSS	HT-40SG-CBSL	HT-40SF-CBSS1	HT-40SF-CBSL1	HT-40SF-CBSS2	HT-40SF-CBSL2	HT-40SE-CBLH1	HT-40SE-CBLH2	
ホストインタフェース	種別	ファイバチャネル：最大16Gbps		iSCSI：最大10Gbps		ファイバチャネル：最大16Gbps		iSCSI：最大10Gbps		ファイバチャネル：最大32Gbps または iSCSI：最大10Gbps						
	ポート数(最大)	ファイバチャネル		-		4(16Gbps)		-		8(32Gbps/16Gbps)		16(32Gbps/16Gbps)		48*1(32Gbps/16Gbps)	64*2(32Gbps/16Gbps)	
		iSCSI		-		4 (10GBASE-T/1000BASE-T)		4 (10GBASE-T/1000BASE-T)		4 (10GBASE-SR/10GBASE-T/1000BASE-T)		8 (10GBASE-SR/10GBASE-T/1000BASE-T)		24*3 (10GBASE-SR/10GBASE-T/1000BASE-T)	32*4 (10GBASE-SR/10GBASE-T/1000BASE-T)	
サポートドライブ	ドライブインタフェース		SAS (Serial Attached SCSI) 最大12Gbps						SAS (Serial Attached SCSI) 最大12Gbps							
	ディスクドライブ	2.5型 15,000回転	300GB/600GB						300GB/600GB							
		2.5型 10,000回転	600GB/1.2TB/1.8TB/2.4TB						600GB/1.2TB/1.8TB/2.4TB							
		3.5型 10,000回転	-						1.2TB/1.8TB/2.4TB*5							
	3.5型 7,200回転	6TB/10TB/14TB						6TB/10TB/14TB								
	フラッシュドライブ		480GB ~ 30TB						480GB ~ 30TB				960GB ~ 30TB			
最大物理容量	アレキシシステム内部ストレージ		2,889TB (2,627TiB)			2,331TB (2,120TiB)			3,611TB (3,284TiB)	3,053TB (2,777TiB)	5,778TB (5,255TiB)	5,220TB (4,747TiB)	8,667TB (7,882TiB)	8,109TB (7,375TiB)	26,002TB (23,648TiB)	34,669TB (31,531TiB)
	アレキシシステム外部ストレージ		9PB (8PiB)						72PB (64PiB)		72PB (64PiB)		144PB (128PiB)		216PB (192PiB)	287PB (255PiB)
キャッシュメモリー最大容量		32GiB						64GiB		128GiB		256GiB		512GiB	1,024GiB	
サポートRAIDレベル		RAID5 (2D+1P~8D+1P)、RAID1 (2D+2D、4D+4D)*6、RAID6 (4D+2P、6D+2P、8D+2P、10D+2P、12D+2P、14D+2P)*7						RAID5 (2D+1P~8D+1P)、RAID1 (2D+2D、4D+4D)*6、RAID6 (4D+2P、6D+2P、8D+2P、10D+2P、12D+2P、14D+2P)*7								
電源入力(AC)		単相 100V/200V						単相 100V/200V*8						単相 200V		
コントローラシャーシ仕様	EIA規格ユニット数*9		2						2						4	
	外形寸法(W×D×H)*10		483×813×88mm						483×813×88mm						483×809×175mm	
	質量(最大)*11		50kg						50kg						85kg	
騒音レベル(LpAm)*14	動作時	コントローラシャーシ、2.5型/3.5型/フラッシュモジュールドライブボックス*15		60dB						60dB						
		3.5型高密度ドライブボックス		-						71dB						
省エネ法に基づく表示(2011年度規定)	区分		N						N							
	エネルギー消費効率*16	2.5型ドライブボックス使用時	0.0065	0.0063	0.0063	0.0043	0.0042	0.0042	0.0067	-	0.0063	-	0.0061	-	0.0061	0.0061*17
		3.5型ドライブボックス使用時	0.0024	0.0023	0.0023	0.0020	0.0019	0.0019	-	0.0020	-	0.0019	-	0.0018	0.0018	0.0018*17
		3.5型高密度ドライブボックス使用時	-						0.0063	0.0014	0.0058	0.0013	0.0057	0.0013	0.0013	0.0013*17

*1 ドライブレス構成の場合、最大64ポートとなります。
 *2 チャネルボードボックス(2U)を搭載した場合です。またドライブレス構成の場合、最大80ポートとなります。
 *3 ドライブレス構成の場合、最大10Gbps×32ポートとなります。
 *4 チャネルボードボックス(2U)を搭載した場合です。またドライブレス構成の場合、最大10Gbps×40ポートとなります。
 *5 3.5型高密度ドライブボックスにのみ搭載可能です。
 *6 RAID1 (4D+4D)は、RAID1 (2D+2D)を2組連結させて構成します。
 *7 Hitachi Dynamic Provisioning、Hitachi Dynamic Tiering、Hitachi Thin ImageのプールはRAID5 (2D+1P、5D+1P、8D+1P)およびRAID6 (4D+2P、8D+2P、10D+2P)はサポートしていません。
 *8 3.5型高密度ドライブボックスはAC200Vのみです。
 *9 コントローラシャーシの高さと、ラック筐体の物理ユニット数を示します。ユニットとは、ラック筐体を開けられている取付用の穴と穴との間隔(高さ方向)を言い、EIA (Electronic Industries Association)のパネル取付規格では、1ユニットは44.45mmとなっています。
 *10 外形寸法にはケーブルおよびケーブル固定クランプ、ケーブル固定ネジを含みません。
 *11 最大構成(搭載可能なディスク、冗長コントローラなどをすべてを搭載)における質量を示します。
 *12 全オプションを実装した構成での最大負荷時の消費電力です。
 *13 全オプションを実装した構成で、エラー無し、I/O有りの状態での消費電力です。
 *14 騒音値はISO7779に準拠して次の条件で測定した数値です。
 ・測定環境：環境温度23°C±2°Cの半無響室で測定
 ・装置搭載位置：コントローラシャーシはラック最下段、ドライブボックスはラック内高さの1.5m付近
 ・測定位置：装置前後左右から各1m、高さ1.5m(4か所)
 ・測定値：前後左右4点のエネルギー平均値
 *15 モデルによって接続可能なドライブボックスは異なります。
 *16 エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定された消費電力を、省エネ法で定める記憶容量で除したものです。
 *17 チャネルボードボックス(2U)を搭載した場合です。
 ※ 1GB=1,000³バイト、1TB=1,000⁴バイト、1PB=1,000⁵バイト、1GiB=1,024³バイト、1TiB=1,024⁴バイト、1PiB=1,024⁵バイトとして計算した値です。